

定例会資料：報告(2)
令和6年9月26日
教 育 研 究 所

令和6年度全国学力・学習状況調査における 秋田市の結果について

令和6年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

● 調査概要 ●

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が、義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から継続して実施してきました。

今年度の調査は、令和6年4月18日に、国語、算数・数学の教科に関する調査が行われました。また、生活習慣や学習環境等についての質問調査は、令和6年4月10日から4月30日までの期間に行われました。

● 本市調査結果の概要 ●

【教科調査の概要「全般」】

- ・ 小学校6年生2,063名、中学校3年生2,014名が参加しました。
- ・ 国語、算数・数学の内容や領域ごとの平均正答率は、小学校では、算数の「変化と関係」を除き、全国平均を上回りました。中学校では、国語の「情報の扱い方に関する事項」を除き、全国平均を上回りました。
- ・ 無解答率は、小学校では、国語の2問を除き、全国平均を下回りました。中学校では、国語の2問、数学の1問を除き、全国平均を下回りました。

【教科調査の概要「国語」】

- ・ 小学校では、メモの書き表し方の説明として適切なものを選択する問題の正答率は91%、書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は85%でした。
- ・ 話し方の工夫として適切なものを選択する問題の正答率は61%、取材メモをもとに考えたことについて書く問題の正答率は64%でした。自分の考えが伝わるように表現を工夫することなどに課題があると考えられます。
- ・ 中学校では、行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は82%、書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は82%でした。
- ・ 話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は42%、本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は40%でした。情報と情報との関係をとらえることや、文章と図表などを結び付けて内容を解釈することに課題があると考えられます。

【教科調査の概要「算数・数学」】

- ・ 小学校では、問題場面を表した式について、正しいものを選択する問題の正答率は92%、作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選択する問題の正答率は86%でした。
- ・ 直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を答える問題の正答率は37%、家から学校まで歩く2人の子どもについて、どちらが速いか判断し、その理由を説明する問題の正答率は27%でした。図形を構成する要素を見だし、それらを活用することや、場面や目的に応じて長さや速さなどをとらえて比べたり表現したりすることに課題があると考えられます。

令和6年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

- ・中学校では、問題場面における考察の対象をとらえ、正の数と負の数の加法の計算をする問題の正答率は91%、ストーブの使用時間と灯油の残量についてのグラフを読み取り、y軸との交点Pが表すものを選択する問題の正答率は84%でした。
- ・正三角形の性質を根拠として、三角形の合同を証明する問題の正答率は25%、ストーブが「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いを求める方法について説明する問題の正答率は17%でした。筋道を立てて証明することや、問題解決の方法を考察し、数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられます。

【児童生徒質問調査の概要】

〔自分自身について〕

- ・「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」など、自分自身のよさを知り、向上心を持って生活している子どもの割合が、全国平均を上回っています。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。

〔人との関わりについて〕

- ・「友達関係に満足している」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「人が困っているときは、進んで助けている」など、学校生活等において友だちや先生と良好に関わっている子どもの割合は、小学生では全国平均と同じ値または上回り、中学生では全国平均を上回っています。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。

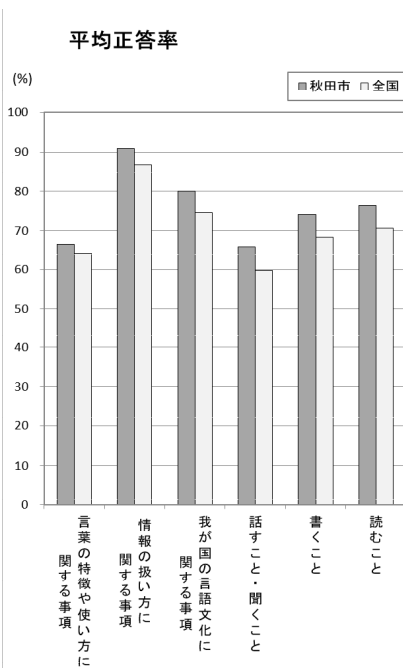
〔学習について〕

- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」など、学習活動に意欲的に取り組んでいる子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。
- ・「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用した」と回答した子どもの割合は、小学生・中学校共に全国平均を下回りました。一方、「ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると感じている」「ICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができると感じている」など、ICT機器を活用した学習のよさを感じている子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。

〔家庭生活について〕

- ・「毎日、もしくは、どちらかといえば毎日朝食を食べている」「学校の授業時間以外に、平日30分以上勉強をしている」など、基本的な生活習慣や、家庭での学習習慣を身に付けている子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。

小学校国語 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和6年度】



＜言葉の特徴や使い方に関する事項＞ 問題 ① ② ③

○話し方を変えた理由として適切なものを選択する問題の正答率は81%でした。

●「きょうぎ（競技）」を漢字で書く問題の正答率は42%でした。文や文章の中で、漢字を正しく使うことに課題があると考えられます。

＜情報の扱い方に関する事項＞ 問題 ②

○メモの書き表し方の説明として適切なものを選択する問題の正答率は91%でした。

＜我が国の言語文化に関する事項＞ 問題 ③

○読書の記録を読み返し、気付いたことをまとめた内容として適切なものを選択する問題の正答率は80%でした。

＜話すこと・聞くこと＞ 問題 ①

●オンラインで交流する場面における話し方の工夫として適切なものを選択する問題の正答率は61%でした。資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題があると考えられます。【問題例参照】

【オンライン交流の様子の一部】

③ メールありがとうございます。図書委員会のことを知りたいということでしたので、まず、海城小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出題されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

【課題となっている問題例】

①

二(2) 和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
- 2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
- 3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
- 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

正答 2

＜書くこと＞ 問題 ②

○書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は85%でした。

●取材メモをもとに考えた「たてわり遊び」のよさについて書く問題の正答率は64%でした。事実と感想、意見とを明確にして書くなど、自分の考えが伝わるように書くことに課題があると考えられます。

＜読むこと＞ 問題 ③

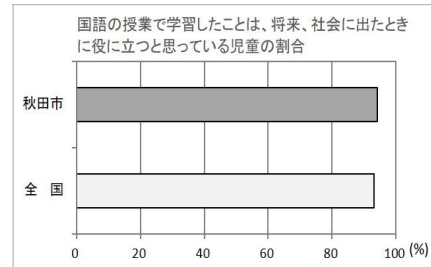
○物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめる問題の正答率は80%でした。

質問調査から「国語の学習について」

「国語の勉強は好きだ」と回答した児童の割合は68%で、全国平均を6ポイント上回っています。

「国語の勉強は大切だと思う」と回答した児童の割合は95%で、全国平均と同じ割合となっています。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は94%で、全国平均を1ポイント上回っています。



小学校国語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、自分の考えを分かりやすく話す力、話題や展開に沿って話し合う力、音読や朗読する力など、音声による表現力があります。

各校では、学び方の定着を図ったり、学び合いの場面における手立てを工夫したりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、詩歌や物語の音読を通して、言葉の響きやリズムを感じたり、登場人物の気持ちや場面の様子を思い浮かべたりしながら、表現する楽しさを味わっている子どもの姿が見られます。

一方、聞き手を意識して表現を工夫することや、根拠を明確にして考えをまとめることなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、漢字の読みや意味、構成を調べたり、熟語を使って短文を作ったりする活動を取り入れるなど、文や文章の中で漢字を正しく使うことができるような指導の充実を図ります。

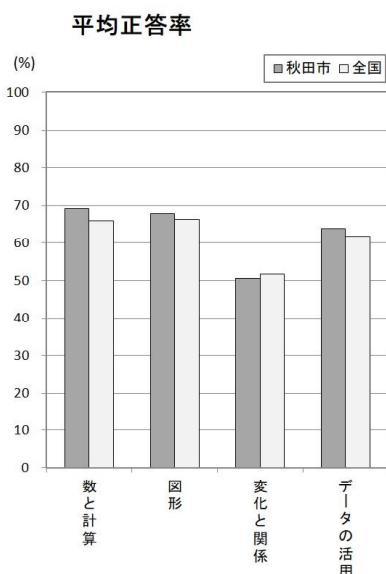
「話すこと・聞くこと」については、目的や意図に応じた表現の仕方や資料の使い方について検討する活動を通して、自分の考えを分かりやすく伝える力を高める指導の工夫を図ります。

「書くこと」については、自分の書いた文章を見直し、よりよい表現になるよう推敲したり、互いの文章を読み合い、感想や意見を伝え合ったりする活動を取り入れるなど、目的や意図に応じて適切に書くことができるような指導の充実を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

相手や目的に応じて、効果的な伝え方を考えたり、互いの考えを整理し、根拠を明らかにして考えをまとめたりする活動を設定するなど、表現する力を高めることができるような指導の充実を図ります。

小学校算数 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和6年度】



<数と計算> 問題 1 2 4 5

○問題場面を表した式について、正しいものを選択する問題の正答率は92%でした。

- 2人の子どもが持っている折り紙の枚数の関係から、一方が持っている折り紙の枚数を求める式を選択する問題の正答率は64%でした。問題場面を正しくとらえ、数学的に表現することに課題があると考えられます。

<図形> 問題 3

○作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選択する問題の正答率は86%でした。

- 直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を答える問題の正答率は37%でした。図形を構成する要素を見だし、それらを活用することに課題があると考えられます。

<変化と関係> 問題 4

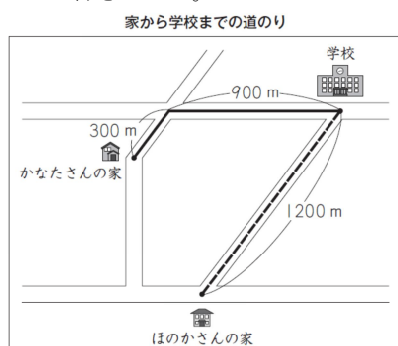
○3分間で180m歩くことをもとに、1800mを歩くのにかかる時間を答える問題の正答率は72%でした。

- 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる2人の子どもについて、どちらが速いか判断し、その理由を説明する問題の正答率は27%でした。異なる種類の数量の関係に着目し、場面や目的に応じて長さや速さなどをとらえて比べたり表現したりすることに課題があると考えられます。

【問題例参照】

【課題となっている問題例】 4

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

正答 1

※「選んだわけ」は、紙面の関係で省略します。

<データの活用> 問題 5

○桜の開花日についての月別の割合を表した円グラフから、4月の割合を読み取る問題の正答率は82%でした。

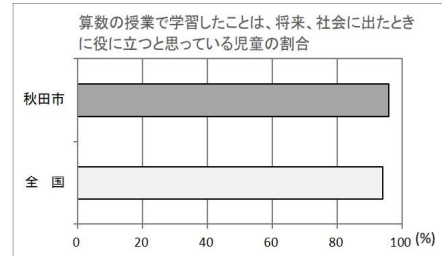
- 桜の開花日の月についての折れ線グラフを読み取り、開花した回数の違いや、その回数が最も大きい年代などについて説明する問題の正答率は46%でした。グラフから読み取ったことを、数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられます。

質問調査から「算数の学習について」

「算数の勉強は好きだ」と回答した児童の割合は63%で、全国平均を2ポイント上回っています。

「算数の勉強は大切だと思う」と回答した児童の割合は96%で、全国平均を1ポイント上回っています。

「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は96%で、全国平均を2ポイント上回っています。



小学校算数「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、課題提示の仕方を工夫したり、既習の内容と関連させて問題解決の見通しを持つ場面を取り入れたりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、問題解決の過程を言葉や図、式などを用いて表現しようと試みたり、自分の考えをペアやグループで説明し合ったりするなど、主体的に考え、学び合う子どもの姿が見られます。

一方、自分の考えを筋道を立てて説明することや、問題解決の過程や結果を振り返り、考察することなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「数と計算」では、問題場面を図に表して数量の関係をとらえたり、図をもとにして式に表したりするなど、数学的に表現したことを関連付けて考察する活動の充実を図ります。

「図形」では、身の回りの形から図形をとらえ、図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し面積や体積を求めるなど、図形の意味や性質をもとに必要な情報を見だし、考察する活動の充実を図ります。

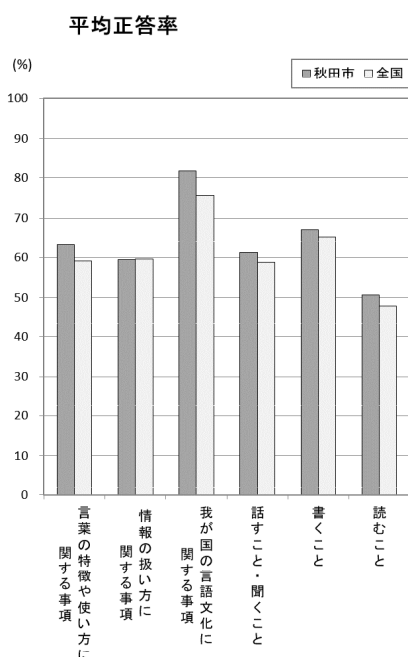
「変化と関係」では、速さなど単位量当たりの大きさの意味や表し方についての理解を深めるとともに、場面や目的に応じた比べ方や表現の仕方などについて考察し、数学的に表現する活動の充実を図ります。

「データの活用」では、グラフから必要な情報を読み取って判断したり、判断の理由を説明したりするなど、分類整理されたデータをもとに、目的に応じて分析し、考察する活動の充実を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

算数における用語や図などを用いて自分の考えをまとめたり、伝え合ったりするなど、数学的な表現を用いることのよさを実感できるような活動や、思考の過程を筋道を立てて説明する活動の充実を図ります。また、問題解決の過程や結果を振り返り、自分の考えと他者の考えを比較・検討する活動を取り入れるなど、新たな気づきや理解の深化を促すような指導の充実を図ります。

中学校国語 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和6年度】



＜言葉の特徴や使い方に関する事項＞ 問題 ③ ④

○「みちたりた（満ち足りた）」を漢字で書く問題の正答率は75%でした。

●語句の順序を直した意図として適切なものを選択する問題の正答率は57%でした。修飾語と被修飾語の関係をとらえることに課題があると考えられます。

＜情報の扱い方に関する事項＞ 問題 ① ②

○具体や抽象など情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は76%でした。

●話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は42%でした。原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係をとらえることに課題があると考えられます。

＜我が国の言語文化に関する事項＞ 問題 ④

○行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は82%でした。

＜話すこと・聞くこと＞ 問題 ①

●話合いの話題や発言を踏まえ、自分の考えをまとめる問題の正答率は48%でした。発言を結び付けて考えをまとめることに課題があると考えられます。

＜書くこと＞ 問題 ③

○書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は82%でした。

●表現を工夫して書き、工夫した表現の効果を説明する問題の正答率は52%でした。表現の適切さや効果をとらえることに課題があると考えられます。

＜読むこと＞ 問題 ② ④

●本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は40%でした。文章と図表などを結び付けて内容を解釈することに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】

（園池公毅『植物の形には意味がある』による。）

② 「図」さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものとして適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。

- 1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。
- 2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。
- 3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。
- 4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。

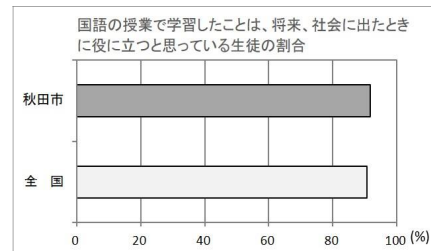
正答
1、2

質問調査から「国語の学習について」

「国語の勉強は好きだ」と回答した生徒の割合は72%で、全国平均を8ポイント上回っています。

「国語の勉強は大切だと思う」と回答した生徒の割合は96%で、全国平均を2ポイント上回っています。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は92%で、全国平均を1ポイント上回っています。



中学校国語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査（ペーパーテスト）では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、自分の考えを分かりやすく話す力、話題や展開をとらえながら話し合う力、音読や朗読する力など、音声による表現力があります。

各校では、教材の提示の仕方を工夫したり、目的を明確にした学び合いの場を設定したりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、話し方や聞き方、話し合いの仕方を振り返ったり、より分かりやすい表現になるよう吟味したりするなど、主体的に学習活動に取り組む子どもの姿が見られます。

一方、話し合いの展開をとらえ、相手の意見を踏まえて質問したり、根拠を明確にして考えをまとめたりすることなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、文の成分や照応に着目し、分かりやすい文章に整える活動を設定するなど、文章の構成や展開について理解を深めることができるような指導の充実を図ります。

「情報の扱い方に関する事項」については、様々な媒体から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を整理したりする活動を設定するなど、情報と情報との関係をとらえることができるような指導の充実を図ります。

「話すこと・聞くこと」については、話し合いの段階に応じて発言の内容を整理する活動を設定するなど、発言を結び付けて自分の考えをまとめることができるような指導の工夫を図ります。

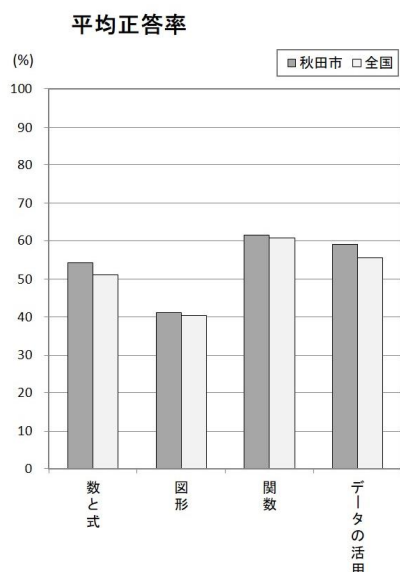
「書くこと」については、用いた語句や表現の効果について検討する活動を取り入れるなど、目的や意図に応じて分かりやすく書く力を高める指導の充実を図ります。

「読むこと」については、文章中に示された図表についての効果を検討する活動を設定するなど、筆者の意図をとらえることができるような指導の工夫を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

話し合いの目的や方向性を確認する場を設定したり、互いの立場や意見の違いを整理し、根拠を明確にした上で意見を述べたりするなど、話題や展開をとらえて話し合う力を高める指導の充実を図ります。

中学校数学 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和6年度】



<数と式> 問題 1 2 6

- 問題場面における考察の対象をとらえ、正の数と負の数の加法の計算をする問題の正答率は91%でした。
- 連続する2つの偶数を n を用いた式で表す問題の正答率は39%でした。事象に即して解釈したことを数学的に表現することに課題があると考えられます。

<図形> 問題 3 9

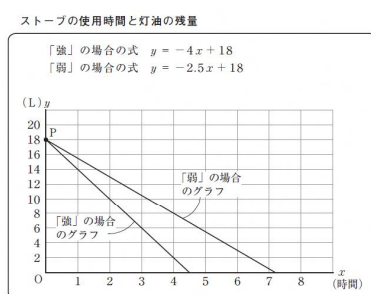
- 正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選択する問題の正答率は71%でした。
- 正三角形の性質を根拠として、三角形の合同を証明する問題の正答率は25%でした。もとの図形を条件を変えずに変形したとき、それぞれの図形にお

ける示された角の大きさとして正しいものを選択する問題の正答率は27%でした。筋道を立てて証明することや、問題解決の過程や結果に着目し、新たな性質を見いだすことに課題があると考えられます。

<関数> 問題 4 8

- ストーブの使用時間と灯油の残量についてのグラフを読み取り、 y 軸との交点 P が表すものを選択する問題の正答率は84%でした。
- ストーブが「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いを求める方法について説明する問題の正答率は17%でした。問題解決の方法を考察し、数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】 8



- (2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

※正答例は、紙面の関係で省略します。

<データの活用> 問題 5 7

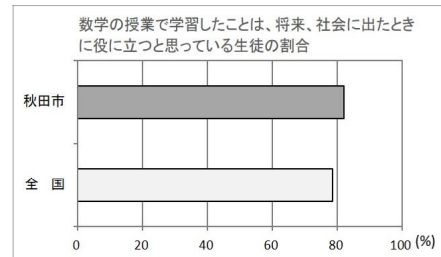
- 実験の結果の最頻値を求める問題の正答率は79%でした。
- 障害物を感知して止まる車型ロボットについての実験データを表した箱ひげ図をもとに、データの分布の傾向を説明する問題の正答率は26%でした。複数の集団のデータについて分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられます。

質問調査から「数学の学習について」

「数学の勉強は好きだ」と回答した生徒の割合は58%で、全国平均を1ポイント上回っています。

「数学の勉強は大切だと思う」と回答した生徒の割合は90%で、全国平均を3ポイント上回っています。

「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は82%で、全国平均を3ポイント上回っています。



中学校数学「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、課題の提示の仕方を工夫したり、子どものつぶやきや反応を生かした学び合いの場面を設定したりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、多様な考えを比較・検討する場面では、互いの考えのよさを伝え合ったり、自分の表現を他者の表現と比較して考察を深めたりするなど、主体的に学習活動に取り組む子どもの姿が見られます。

一方、数学的な表現を用いて簡潔に説明することや、問題解決の過程や結果をもとに新たな課題を見だし、考察することなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「数と式」では、文字式を用いて事象における数量や数量の関係を表現する活動や、身の回りの事象などから見いだした事柄を数学的な表現を用いて説明する活動の充実を図ります。

「図形」では、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く活動を取り入れるとともに、問題の条件を変えて考え直すなど、類似した事柄の間に共通する性質や新たに見いだした性質について考察する活動の充実を図ります。

「関数」では、表や式、グラフなどを関連付けて読み取ったり考察したりする活動を取り入れるとともに、問題解決の見通しをもち、解決の方法を数学的な表現を用いて説明する活動の充実を図ります。

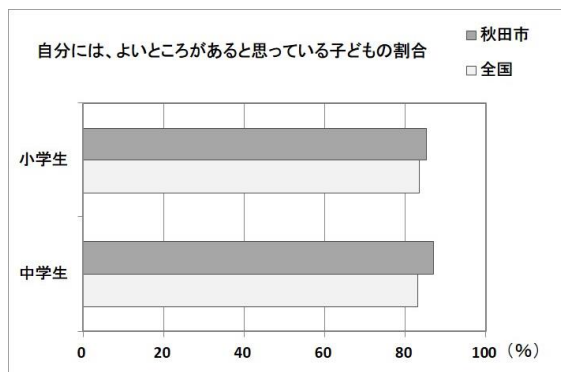
「データの活用」では、目的に応じて図や表を用いてデータを整理し、データの分布の傾向を比較して読み取ったり、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりする活動の充実を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

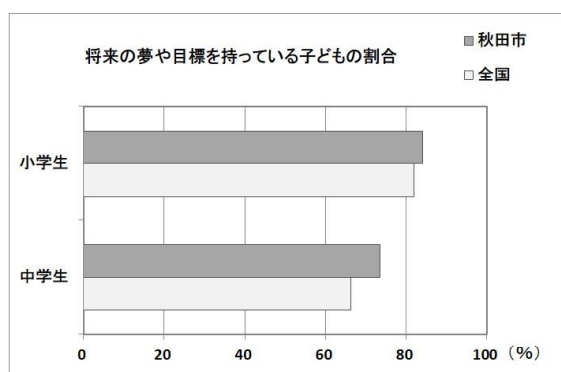
図、式、表、グラフなどを用いて、自分の考えをまとめたり、説明したりするなど、数学的な表現を用いることのよさを実感できるような活動や、思考の過程を筋道を立てて説明する活動の充実を図ります。また、解決の過程や結果を振り返って考察する活動を取り入れるなど、既習事項を活用することの有用性を実感し、発展的に考えることができるような指導の充実を図ります。

児童生徒質問調査の結果から【令和6年度】

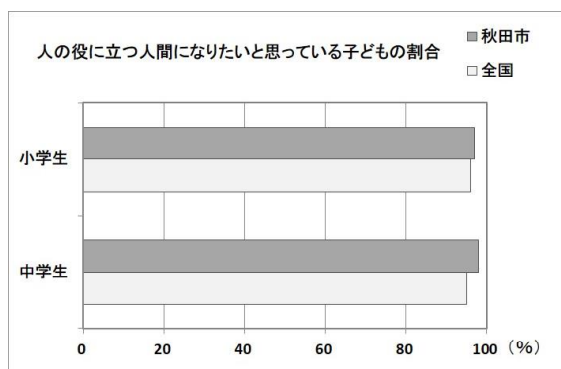
● 自分自身について ●



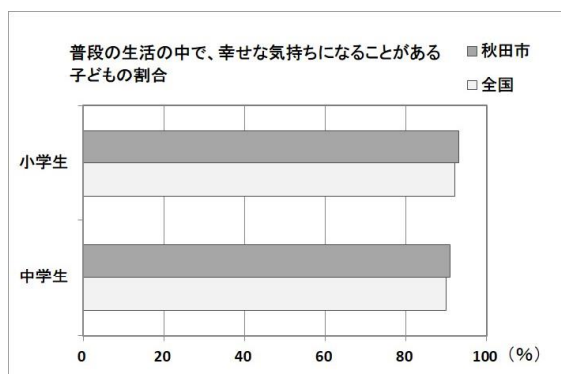
「自分には、よいところがあると思う」と回答した子どもの割合は、小学生で85%、中学生では87%となっており、全国平均を小学生は1ポイント、中学生では4ポイント上回っています。



「将来の夢や目標を持っている」と回答した子どもの割合は、小学生で84%、中学生では74%となっており、全国平均を小学生は2ポイント、中学生では8ポイント上回っています。



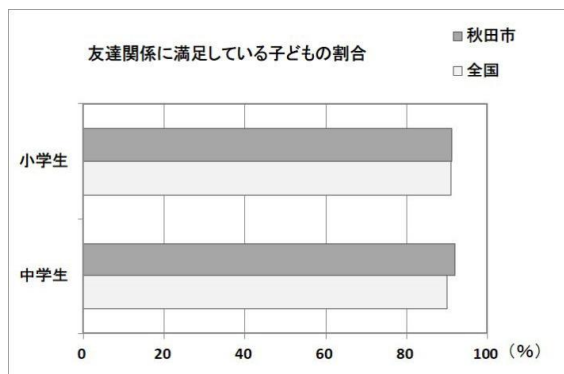
「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した子どもの割合は、小学生で97%、中学生では98%となっており、全国平均を小学生は1ポイント、中学生では3ポイント上回っています。



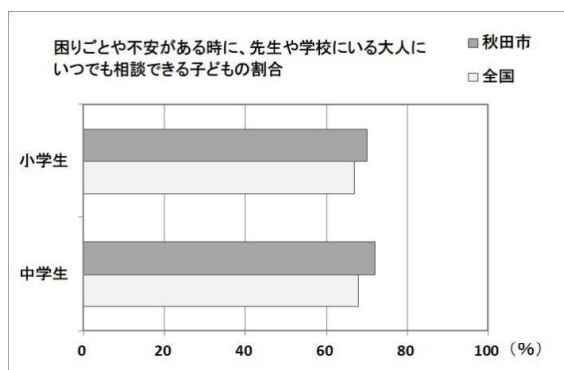
「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」と回答した子どもの割合は、小学生で93%、中学生では91%となっており、いずれも全国平均を1ポイント上回っています。

児童生徒質問調査の結果から【令和6年度】

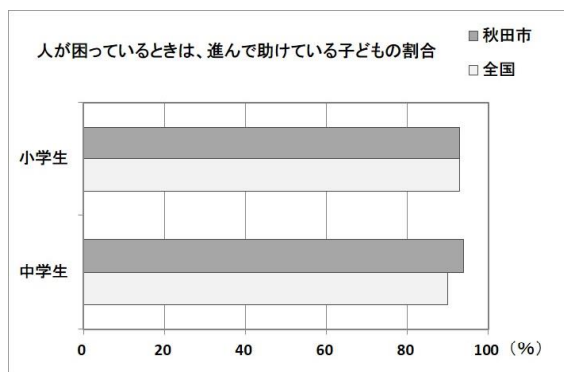
● 人との関わりについて ●



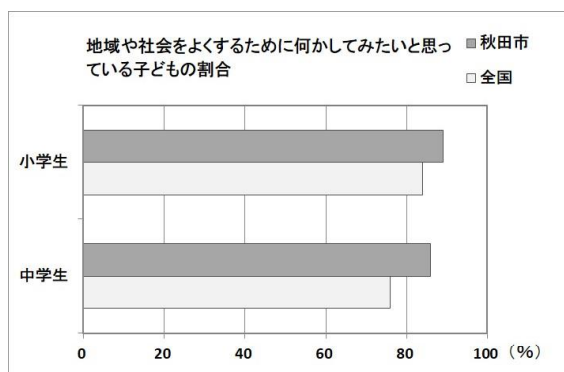
「友達関係に満足している」と回答した子どもの割合は、小学生で91%、中学生では92%となっており、小学生は全国平均と同じ割合、中学生では全国平均を2ポイント上回っています。



「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した子どもの割合は、小学生で70%、中学生では72%となっており、全国平均を小学生は3ポイント、中学生では4ポイント上回っています。



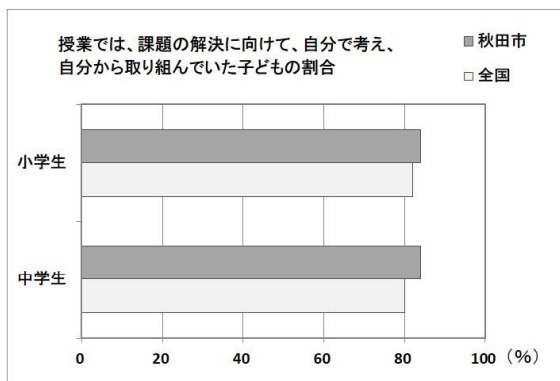
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した子どもの割合は、小学生で93%、中学生では94%となっており、小学生は全国平均と同じ割合、中学生では全国平均を4ポイント上回っています。



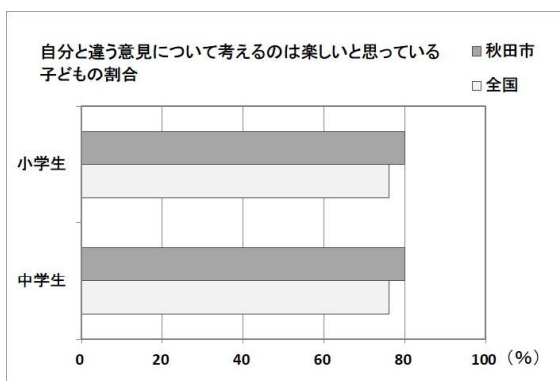
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した子どもの割合は、小学生で89%、中学生では86%となっており、全国平均を小学生は5ポイント、中学生では10ポイント上回っています。

児童生徒質問調査の結果から【令和6年度】

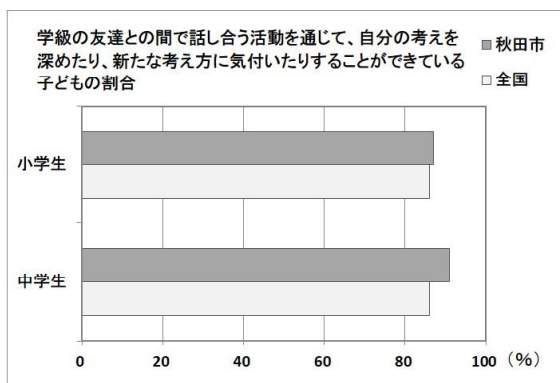
● 学習について ●



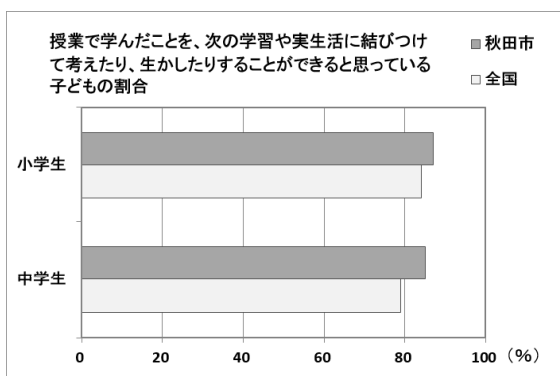
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に84%となっており、全国平均を小学生は2ポイント、中学生では4ポイント上回っています。



「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に80%となっており、いずれも全国平均を4ポイント上回っています。



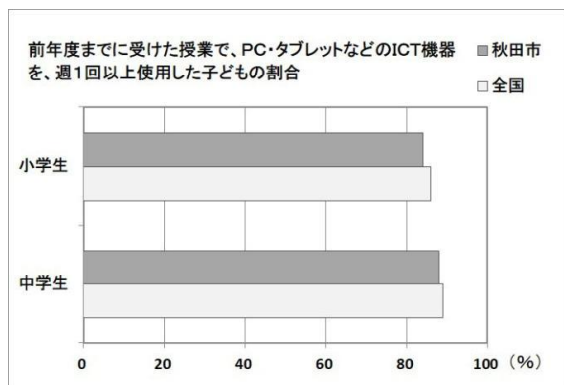
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」と回答した子どもの割合は、小学生で87%、中学生では91%となっており、全国平均を小学生は1ポイント、中学生では5ポイント上回っています。



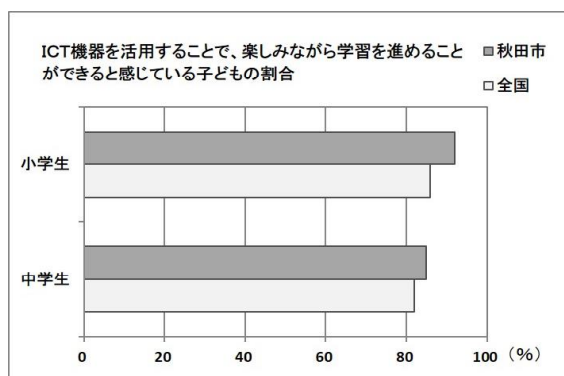
「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりできていると思う」と回答した子どもの割合は、小学生で87%、中学生では85%となっており、全国平均を小学生は3ポイント、中学生では6ポイント上回っています。

児童生徒質問調査の結果から【令和6年度】

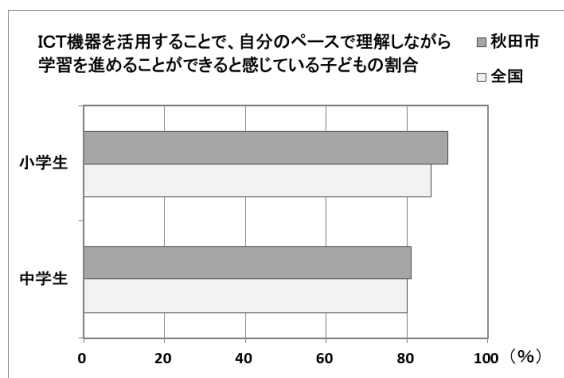
● ICTの活用について ●



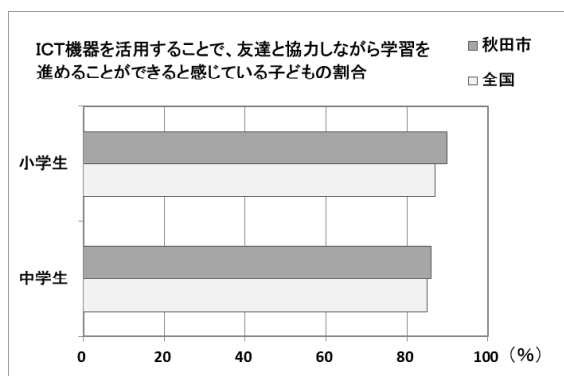
「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用した」と回答した子どもの割合は、小学生で84%、中学生では88%となっており、全国平均を小学生は2ポイント、中学生では1ポイント下回っています。



「ICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる」と回答した子どもの割合は、小学生で92%、中学生では85%となっており、全国平均を小学生は6ポイント、中学生では3ポイント上回っています。



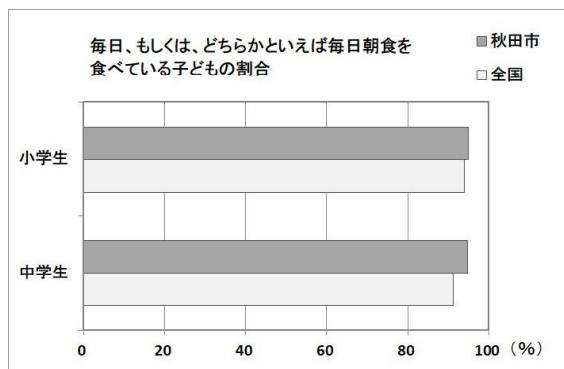
「ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると感じている」と回答した子どもの割合は、小学生で90%、中学生では81%となっており、全国平均を小学生は4ポイント、中学生では1ポイント上回っています。



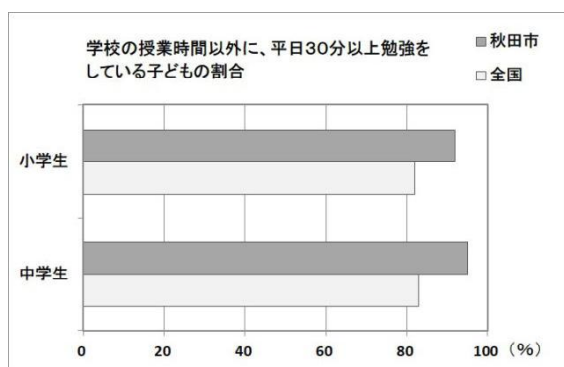
「ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができると感じている」と回答した子どもの割合は、小学生で90%、中学生では86%となっており、全国平均を小学生は3ポイント、中学生では1ポイント上回っています。

児童生徒質問調査の結果から【令和6年度】

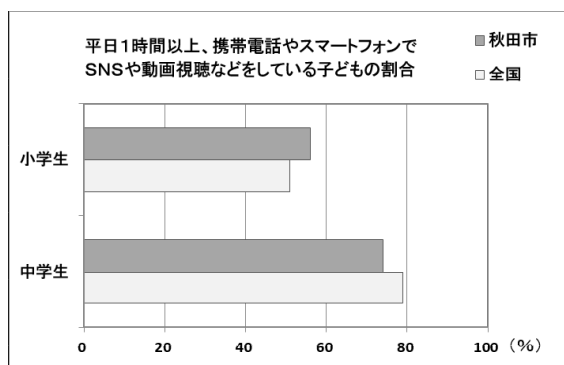
● 家庭生活について ●



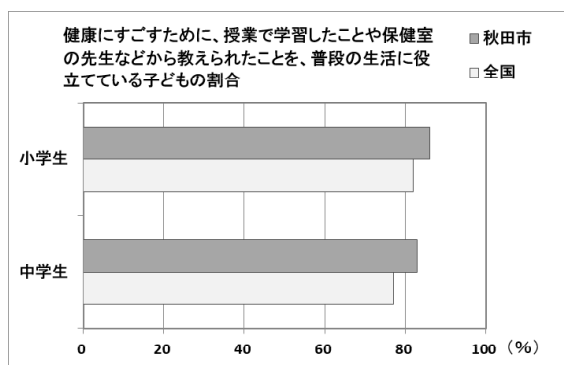
「毎日、もしくは、どちらかといえば毎日朝食を食べている」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に95%となっており、全国平均を小学生は1ポイント、中学生では4ポイント上回っています。



「学校の授業時間以外に、平日30分以上勉強をしている」と回答した子どもの割合は、小学生で92%、中学生では95%となっており、全国平均を小学生は10ポイント、中学生では12ポイント上回っています。



「平日1時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などを行っている（学習やゲームをする時間は除く）」と回答した子どもの割合は、小学生で56%、中学生では74%となっており、全国平均を小学生は5ポイント上回り、中学生では5ポイント下回っています。



「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立っている」と回答した子どもの割合は、小学生で86%、中学生では83%となっており、全国平均を小学生は4ポイント、中学生では6ポイント上回っています。